

平成24年度「北信越かがやき総体」大会レポート

「君は今、希望とともに緑の大地をかけぬける」

内藤 美明

8月9日（木）

15：30～南魚沼市民会館大ホールにおいて、今大会の開会式が行われました。迫田義次全国高体連テニス部部長による開式通告、新潟県高等学校体育連盟テニス専門部部長江口司氏による開会宣言によって、2012 北信越かがやき総体テニス競技が始まりました。

開式通告・開会宣言に引き続き、昨年度青森インターハイ優勝校・優勝者による優勝旗・優勝杯返還が行われました。注目は、昨年度三冠を達成した男子三重県立四日市工業高校、後藤翔太郎君が、2年連続を達成するのか？河内一真君を擁する兵庫県相生学院高校の活躍は・・・？女子においては団体戦での福井県仁愛女子高校の活躍はいかに、関東大会での結果が今一つだった女子団体三連覇を目指す東京都富士見丘高校の奮闘振りに期待がかかる大会になりそうな雰囲気でした。

新潟県立新発田高校、男子主将、豊野潤也君と新潟県立長岡大手高校、女子主将、三浦郁美さんによる選手宣誓は、2人の息がぴたりと合った、明日から頑張るぞという気持ちにさせるものでした。選手宣誓を無事終えて、席に戻った時の2人の笑顔がとても印象的でした。



そして、アトラクションでは、新潟県立新発田高校プラスバンド部によるジャズ演奏は、開会式の緊張感を和やかな雰囲気に一変させる、とても素晴らしいものでした。ただ、最後の曲が終わった後、幕が閉じないので、「どうしたのかな。」と思ったら、「あっ、アンコールの催促か？」という笑いを誘うような、とても良い雰囲気で、いよいよ明日からの熱い戦いの予感がひしひしと伝わって来る素晴らしい開会式でした。開会式に携わって頂いた関係者全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。



8月10日（金）

大会1日目、男女団体戦の1、2回戦が行われました。大会は、初日から大波乱の熱い戦いとなりました。男子、第4シード関東大会優勝の東京都大成高校が初戦で大阪府清風高校に1-2で敗れ、昨年度準優勝の京都府東山高校が、第8シード大分県大分舞鶴高校に2-1で勝利しました。また、地元新潟県勢の活躍も見られ、男子は新発田高校が、女子は新潟第一高校が3回戦に進出しました。男女ともに地元の高校が2日目に勝ち残り、明日の熱い戦いへの期待とともに1日目が終了しました。

8月11日（土）

大会2日目、男女団体戦の3、4回戦が行われました。大会2日目も初日に引き続き、大波乱となりました。まず、女子の第1シード福井県仁愛女子高校が東京都早稲田実業学校の辻姉妹のシングルス1、2に敗れ、ベスト16で敗退。早稲田実業学校は4回戦も辻姉妹の大活躍で、関東大会優勝の埼玉県浦和学院高校に勝ってベスト4進出。

三連覇を目指すノーシード東京都富士見丘高校が、3回戦で第2シード千葉県秀明八千代高校に2-0で勝ち、続く4回戦では、同じくノーシードから勝ち上がって来た京都府京都外大西高校にも2-0で勝ち、ベスト4進出。明日の三連覇へ期待がかかりました。そして、中国大会優勝の山口県野田学園高校と東海大会優勝の愛知県名経大高蔵高校の試合は、1-1でシングルス2にもつれ、長い戦いの末、1-4の劣勢を跳ね返した名経大高蔵の1年生、大矢希さんが勝ち、4回戦へ進出。第3シード兵庫県園田学園高校に挑みましたが、あと一步のところで敗退、北信越大会優勝の松商学園高校も4回戦で、近畿大会優勝の第4シード大阪府城南学園高校に敗退。その結果、女子ベスト4は、三連覇を目指す、東京都富士見丘高校、同じく東京都早稲田実業学校、兵庫県園田学園高校、大阪府城南学園高校となり、明日は、関東対関西で、決勝戦は関東対関西になるのか？それとも関西同士になるのか？それとも関東同士いや、東京対決になるのか？いろいろな思いを込めた戦いが期待されました。

一方、男子はともにともにノーシードから勝ち上がった静岡県浜松市立高校と京都府東山高校の戦いは、東山高校が勝って、ベスト8進出。続く福岡県柳川高校との戦いは、ダブルスは6-4、6-4で柳川高校取りましたが、シングルス1は、柳川高校、増尾君が東山高校、長船君に3-6、6-7で敗れ、勝負の行方はシングルス2にもつれましたが、柳川高校、翼君が6-3、6-3で東山高校、柴野君に勝ち、ベスト4進出。

第2シード近畿大会優勝、兵庫県相生学院高校は東海大会準優勝、愛知県名経大市邨高校に勝ってベスト4進出。地元、新発田高校と第3シード二連覇を目指す、三重県四日市工業高校の3回戦は、ダブルス8-6で新発田高校が勝ちましたが、シングルス1は四日市工業高校、後藤君が勝って1-1、勝負の行方はシングルス2へ・・・。しかし、新発田高校シングルス2高橋君は四日市工業高校の長田君に敗れ、地元の大応援の期待に応えられませんでしたが、最後の1ポイントまであきらめない選手、そして応援の姿には心を打たれました。続く4回戦、四日市工業高校は、関東大会準優勝の神奈川県湘南工科大附高校に勝ち、ベスト4進出。

そして、昨日第4シード関東大会優勝、東京都大成高校に勝ち、勢いに乗る大阪府清風高校とノーシードから勝ち上がって来た鹿児島県鳳凰高校との3回戦。ダブルスは、5-0でいきなり鳳凰高校のリード、それから互いにサービスキープで8-3で鳳凰高校1-0の王手。シングルス1清風高校、矢多君と鳳凰高校、渋田君の試合は、手に汗握る戦いで、6-6の長いデュースを制した渋田君の7-6リードでチェンジコート。そして、40-30のマッチポイント。矢多君の強烈なフォアハンドのストレートでエース。デュースに

持ち込み、そのゲームを取って7-7。それから、渋田君サービスキープで再び8-7のリード。チェンジコートの後の1ポイント目、矢多君のサーブに対して、渋田君はリターンを思い切ってストレートヘリターンエース。そして、40-15の2マッチポイントの1本目を取って、勢いに乗る清風高校に勝利。この一戦で勢いに乗った鳳凰高校は、北信越大会優勝の松商学園高校との4回戦では、ダブルス1セットアップのセカンドセットのタイブレークを制し、2面進行のため、そのコートにシングルス2が入った時、シングルス1の試合は1-1のファイナルセットへ。松商学園高校シングルス2諱君6-2でファーストアップしましたが、その時、鳳凰高校、渋田君が、松商学園高校、西脇君にファイナルセット6-1で勝ち、鳳凰高校初めてのベスト4進出。

その結果、男子は第1シード福岡県柳川高校、二連覇を目指す三重県四日市工業高校、初優勝を目指す兵庫県相生学院高校、初のベスト4で勢いに乗る鹿児島県四日市工業高校の4校となりました。

8月12日（日）

大会3日目、男子準決勝、福岡県柳川高校対鹿児島県鳳凰高校の試合は、同じ九州地区同士の戦いとなりましたが、柳川高校が2-0のストレートで勝ち、決勝進出。

初優勝を目指す兵庫県相生学院高校と二連覇を目指す三重県四日市工業高校、シングルス1、個人戦のシングルス第1シード四日市工業高校、後藤君と第2シード相生学院高校、河内君の試合は、手に汗握るシーソーゲームのファーストセットは7-5で河内君が取り、セカンドセット河内君の2-0アップのところで万事休す。3面進行のため、四日市工業高校はダブルスとシングルス2が敗れ、二連覇の夢を絶たれてしまいました。

男子団体戦決勝、初優勝を目指す兵庫県相生学院高校と春、夏連覇を目指す福岡県柳川高校の試合は、3面進行で行われ、柳川高校シングルス2翼君が6-2、6-0で相生学院高校、竹本君に勝ちましたが、シングルス1は相生学院高校、河内君が6-3、6-3で柳川高校、増尾君に勝って、勝負の行方はダブルスにかかりました。4人共、1本づつ声を出し、気迫のこもったプレーの連続でしたが、相生学院高校、堀切君と細川君が最後のポイントを取り、念願の初優勝となりました。



女子団体戦準決勝、東京都富士見丘高校対兵庫県園田学園高校の試合も男子同様3面進行で行われ、まず、富士見丘高校がダブルスを取り、シングルス1、2ともに富士見丘高校ファーストアップでシングルス2森崎さんが園田学園高校、上さんに勝って決勝進出。

東京都早稲田実業学校対大阪府城南学園高校の試合は、シングルス2早稲田実業学校、辻紘子（妹）さんが城南学園高校、安形さんに6-3、6-3で勝ち、あと1本。しかし、ダブルス、シングルス1共にファイナルセットにもつれ込みました。しかし、シングルス

1 早稲田実業学校の辻恵子（姉）さんが城南学園、首藤みなみ（姉）さんに勝って、決勝進出。この結果、平成10年第55回大会以来14年振りの東京対決になりました。

三連覇を目指す富士見丘高校と初優勝を目指す早稲田実業学校の決勝戦は、ダブルスで富士見丘高校が先行。早稲田実業学校は、辻姉妹のシングルス1、2にかけましたが、シングルス2辻紘子（妹）が3-6、2-6のストレートで負け、富士見丘高校の三連覇が達成されました。富士見丘高校はNo.2の岡村が負傷するというアクシデントを抱えながらも勝ち進むという層の厚さが見られました。主将の森さん以外は全て1、2年生という若いチームで来年福岡県での4連覇、そして、2年後には女子団体としては初の5連覇を地元東京開催のインターハイで成し遂げるという夢がかなえられそうな勢いのある優勝でした。



8月13日（月）

大会4日目、今日から個人戦が始まりました。男子は、南魚沼市大原運動公園テニスコートでシングルス、女子は長岡市希望ヶ丘テニス場でダブルスの試合が行われました。単複共に4回戦までおこなわれ、シングルスベスト8、ダブルスベスト4が出そろいました。

男子シングルスでベスト8に勝ち残ったのは、第1シード、昨年度優勝、2連覇を目指す今大会団体戦3位の三重県四日市工業高校シングルスNo.1後藤翔太郎君とシングルスNo.2、長田和典君、第4シード、全日本Jr18才以下単複優勝の兵庫県相生学院高校、河内一真君、第2シード、関東大会シングルス優勝の東京都大成高校、守谷総一郎君、第3シード、今大会団体戦準優勝、福岡県柳川高校のシングルスNo.1増尾怜央楠君と団体戦ではダブルスに出場していた第8シード塚越雄人君、そして、混戦になった第5、6シードブロックから勝ち上がった、長野県松商学園高校、諱五貴君、広島県瀬戸内高校、梶下怜紀君でした。

シードダウン続出、大混戦の女子ダブルスでベスト4に勝ち残ったのは、第1シード、東京都富士見丘高校、森・江見さんに9-7の大激戦で勝った、第5シード、福井県仁愛女子高校、林・玄田さん。団体戦準優勝で乗りに乗っている東京都早稲田実業学校、辻・早野さんが、ノーシードから第5シードブロックを勝ち上がり、4回戦で第4シード、福岡県柳川高校、久光・円本さんに8-3で勝ち、ベスト4進出。今大会団体戦優勝の東京都富士見丘高校シングルスNo.1、2に出場していた細沼・森崎さんは、1回戦で第7シード、北海道札幌日大高校、丹野・平野さんに8-1で勝ち、3回戦では同じくノーシードから勝ち上がって来た、茨城県藤代高校、根本・祢宜さんをタイブレークの大激戦の末勝利、続く4回戦、大阪府城南学園高校、首藤・安形さんとの試合もタイブレークのまたまた大激戦で勝ち、ベスト4進出。そして、第2シード、兵庫県園田学園高校、加治・西口さんに2回戦で沖縄県沖縄尚学高校、大嶺・楚南さんが8-5で勝ち、勢いに乗るかと思われましたが、3回戦で長野県松商学園高校、牧野・野崎さんに8-1で敗れ、今度

は牧野・野崎さんが勢いに乗って、4回戦で第7シード、千葉県秀明八千代高校、岩井・佐藤さんを8-6で勝ち、ベスト4進出。

8月14日（火）

大会5日目、今日は個人戦の2日目で、男女を入れ替わり、男子ダブルスが長岡市希望ヶ丘テニス場で女子シングルスが南魚沼市大原運動公園テニスコートで昨日同様、単複4回戦まで行われ、シングルスベスト8、ダブルスベスト4が出そろいました。

第1シード、東京都早稲田実業学校、辻恵子さんは、大会前からの左足の負傷で精彩を欠き、1回戦で大阪府城南学園高校、田尻千春さんに8-3で敗れるという波乱の第1シードブロックを勝ち上がって来たのは、京都府京都外大西高校、村瀬早香さん、そして、第8シード岡山県山陽女子高校、寺見かりんさんが2回戦で埼玉県浦和学院高校、秋元玲乃さんに敗れるという波乱の第8シードブロックの4回戦はノーシード同士の対決で、千葉県幕張総合高校、盛重翔子さんが群馬県共愛学園高校、福井景子さんに8-6で勝ち、ベスト8進出。

そして、第2シード、福井県仁愛女子高校、林恵里奈さん、第3シード、東京都富士見丘高校、細沼千紗さん、第4シード、千葉県秀明八千代高校、岩井綾音さん、第5シード、大阪府城南学園高校、首藤みなみさん。そして、埼玉県浦和東高校、山田智恵子さんは、3回戦で第7シード、大阪府城南高校、安形玲耶さんに8-4で勝ち、4回戦で愛知県相模山女学園高校、吉川桃加さんにも勝って、ベスト8進出。同じく、千葉県秀明八千代高校、小林夏美さんは3回戦で、第6シード、兵庫県園田学園高校、加治遙さんに8-2で勝ち、4回戦でノーシードから勝ち上がって来た、福井県仁愛女子高校、窪村有真さんにも勝って、ベスト8進出。

男子ダブルスでベスト4に勝ち上がったのは、第1シード、三重県四日市工業高校、後藤・長田君、第2シード、東京都大成高校、守谷・小堀君。そして、第4シード、福岡県柳川高校、塙越・申君に3回戦8-4で勝った、神奈川県湘南工科大附高校、沼尻・岩崎君を4回戦で敗った第5シード、長野県松商学園高校、西脇・諱君。そして、第3シード、兵庫県相生学院高校、河内・青木君が2回戦で愛知県名古屋高校、前川・鈴木君に6-8で、第6シード、東京都早稲田実業学校、井上・岸田君が1回戦で大阪府履正社高校、保々・松山君に5-8で敗れたために大混戦となった第3シードブロックを勝ち上がってのは、大分県大分舞鶴高校、村上・九島君がベスト4進出。

8月15日（水）

大会6日目、男・女シングルス準々決勝、準決勝、ダブルス準決勝が全て3セットマッチで行われ、選手達にとって、長く熱い1日となりました。

男子シングルス準々決勝、三重県四日市工業高校、後藤翔太郎君が、福岡県柳川高校、塙越雄人君に6-3、6-2のストレートで勝ち、ベスト4進出。福岡県柳川高校、増尾

玲央楠君が長野県松商学園高校、諱五貴君に6-2、6-3で勝って、ベスト4進出。そして、広島県瀬戸内高校、梶下玲紀君が正確で強烈なストロークで、兵庫県相生学院高校、河内一真君に6-4、6-3で勝って、ベスト4進出。東京都大成高校、守谷総一郎君は、三重県四日市工業高校、長田和典君の強烈なストロークに翻弄されて、ファーストダウン。しかし、セカンドセットからは、自分を取り戻して、ファイナルセット6-2で勝ち、ベスト4進出。

その結果、準決勝は、後藤君対梶下君、増尾君対守谷君となりました。梶下君の正確で強烈なストロークが冴え渡り、6-4でファーストアップ。セカンドセットは反対に後藤君の3-0アップ。しかし、サービスをブレークされ、3-2。そして、3-3。そこから、後藤君のサービス、ストローク共に冴え渡り、反対に梶下君のストロークにミスが目立ち始め、セカンドセットは6-4、ファイナルセットも6-1で取り、後藤君が決勝進出。増尾君対守谷君の試合は、増尾君のサービス、ストロークが共に冴え渡り、6-2、6-2のストレートで決勝へ進出。

女子シングルス準々決勝は、4試合共セットカウント2-0のストレートで、京都府京都外大西高校、村瀬早香さん、千葉県秀明八千代高校、岩井綾音さん、同じく、小林夏美さん、そして、福井県仁愛女子高校、林恵里奈さんがベスト4進出で、村瀬さん対岩井さん、小林さん対林さんとなりました。準決勝は、今大会最高気温の35度を超える中、壮絶なストロークの応酬で2試合共にファイナルセットにもつれましたが、岩井さんと林さんが勝ち、決勝に進出しました。

男子ダブルス準決勝、三重県四日市工業高校、後藤・長田君と長野県松商学園高校、西脇・諱君の試合は、ファーストセット、ワンブレークの6-4で、後藤・長田君が取りましたが、セカンドセットは、西脇・諱君がタイブレークで取り、ファイナルセットもワンブレークの6-3で取って、決勝進出。もう1つの準決勝は、東京都大成高校、守谷・小堀君が大分県大分舞鶴高校、村上・九島君に6-1、5-1。そこから、村上・九島君の粘りのプレー、そして、随所に見せる目の覚めるようなショットが炸裂し、セカンドセットはタイブレークへ突入。村上・九島君の6-3アップのセットポイント。しかし、そこから、守谷・小堀君が踏ん張り、8-6でゲームセット。守谷・小堀君が決勝進出。

女子ダブルス準決勝、福井県仁愛女子高校、林・玄田さんと東京都早稲田実業学校、辻・早野さんの試合は、やはり、辻さんの足の具合が思わしくなく0-2のストレートで敗れてしまいました。これで、林さんは単・複の決勝進出。もう1つの準決勝は、地元北信越、長野県松商学園高校、牧野・佐藤さんがシングルスNo.1、2に出場して、女子団体優勝、そして、昨日、第6シードに1回戦で勝ち、3、4回戦もタイブレークの大接戦をものにして、ノリノリの東京都富士見丘高校、細沼・森崎さんにファイナルセット7-5の大接戦で勝ち、決勝進出。

8月16日（木）

大会最終日、今日は男・女単複決勝が行われました。朝から気温がぐんぐんと上昇し、とても暑い1日となりました。

男子シングルス決勝、三重県四日市工業高校、後藤君と福岡県柳川高校、増尾君の試合は、二連覇の掛かった試合ということで少し堅くなった様子の後藤君に対して、思い切りのいいプレーで攻めた増尾君がファーストセット6-2で取りました。セカンドセットは両者譲らず、サービスキープで5-4の後藤君アップ。増尾君もサービスキープして5-5。そして、後藤君もサービスキープで6-5アップ。ここで、増尾君のサービスがブレークされ、後藤君がセカンドセット7-5で取り、セットオールでファイナルセットへ突入。ファーストゲーム、ラブゲームで、後藤君のサービスをブレークして、増尾君1-0アップ。それから、お互いにサービスキープで3-1。そこで、後藤君が増尾君のサービスをブレークして2-3、サービスキープで3-3。そこから、お互いにサービスキープで5-4の後藤君のマッチゲーム。しかし、増尾君がサービスキープで5-5。後藤君も譲らず、サービスキープで6-5アップでチェンジコート。セカンドセットと同じ展開でゲームセットとなるのか？それとも、タイブレークに突入するのか？両者の思いがひしひしと伝わってくるような、ベンチの2人の姿がとても印象的でした。結果は、セカンドセットと同じ展開で、最後のポイントを取った後藤君が両手を挙げ、インターハイ男子シングルス2連覇が達成されました。



女子シングルス決勝、千葉県秀明八千代高校、岩井綾音さんと福岡県仁愛女子高校、林恵里奈さん、春の全国選抜高校テニス大会個人戦の再来となった試合は、ファーストセット始めから、昨日までの疲れか、岩井さんの動きが堅く、ショットの精彩を欠いていました。反対に林さんは、強烈なストロークで攻めまくり、6-1でファーストアップ。セカンドセットに入ると、本来の姿を取り戻した岩井さんのショットが炸裂し、5-1アップ。しかし、そこから仁愛女子の本領発揮、粘りのテニスでじわじわと挽回して、5-5に追いつかれたところで、サービスキープで岩井さんの6-5アップ。林さんもラブゲームでサービスゲームを取り、6-6のタイブレークに突入。タイブレークを7-4で取った林さんが、春の全国選抜高校テニス大会個人戦に続いて、女子シングルス優勝が決まりました。



男子ダブルス決勝、地元北信越、長野県松商学園高校、西脇・諱君と東京都大成高校、守谷・小堀君の試合は、ファーストセットお互いにサービスキープで3-3。そこで、守谷君のサービスをブレークして、西脇・諱君の4-3アップ。チェンジコート後、サービスキープで5-3アップ。今度は、小堀君のサービスをブレークして、6-3でファース

トアップ。西脇・諱君は、セカンドセットに入るとファーストゲームをラブゲームでサービスキープ、そのままの勢いで守谷君のサーブをブレークし、自分たちのサーブをキープして3-0。その後、小堀君にサービスゲームをキープされて3-1。しかし、自分達のサービスゲームをキープして4-1。そして、再び、守谷君のサーブをブレークして5-1のマッチゲーム。30-30から思い切りの良いボレーで40-30のマッチポイント。サービスダッシュ、平行陣でボレー、3本目が大きくアウトして、西脇・諱君の初優勝が達成され、守谷君の2年振り、2回目の優勝は夢と消えてしまいました。

女子ダブルス決勝は、シングルスで優勝した福井県仁愛女子高校、林・玄田さんと長野県松商学園高校、牧野・野崎さんの地元、北信越対決となりました。お互いの1歩も譲らず、シーソーゲームとなったファーストセットは6-4で林・玄田さんが取りました。セカンドセットもファーストセット同様、シーソーゲームで3-3。林さんが40-15からダブルフォールト2本でデュース。このゲームを落として3-4。牧野・野崎さんが次のゲームをキープして5-3アップ。しかし、そこから3ゲーム連取されて、5-6のマッチゲーム。林・玄田さん40-15でダブルフォールト。40-30。しかし、マッチポイントで林さんのボレーが相手コートに突き刺さり、林さんの二冠が達成されました。

今大会は、雨による中断が何回かありましたが、大きな支障はなく、天候にはとても恵まれていました。補助員・関係者の方々の願いが届いたとても素晴らしい大会でした。

全ての行事が終わって、水野レフェリーに「素晴らしい大会をありがとうございました。」とご挨拶に伺った時、「ありがとうございました。これから、補助員と関係して頂いた先生方との記念の集合写真に行きます。」と言って、少し涙ぐんで、颯爽と走って行く後ろ姿に今大会の全てが走馬燈のように蘇ってきました。本当に、すばらしい大会をありがとうございました。

